

## 対アジア市場向け LNG 開発への取り組み強化に動くロシア

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
常務理事 首席研究員  
小山 堅

ロシアの対アジア市場・対日本市場向けエネルギー戦略がまた新たな動きを示している。4 月 18 日、ロシア最大の国営石油会社ロスネフチは、丸紅と極東 LNG 事業および石油・ガス鉱区の共同探鉱・開発に関する戦略的パートナーシップ契約を締結したことを発表した。この戦略的パートナーシップは、ロスネフチが保有する石油・ガス鉱区での探鉱・開発を視野に入れつつ、日本を含むアジア市場向けに、極東での LNG プロジェクト実現に向けた様々な分野での取り組み強化を進めていく狙いがある。

ロスネフチがアジア市場戦略を急速に展開・強化しつつある点は、小論「動き出すか、ロシア極東の LNG 開発の新展開 (国際エネルギー情勢を見る目 (121 号) : 2013 年 2 月 22 日)」に既述した通りである。ロスネフチは、米エクソンモービルとの 2011 年「戦略的合意」の下で、ロシア北極圏大陸棚開発、アラスカノーススロープ (Point Thomson) 開発に加え、極東 LNG 事業における協力を進める意向を明示している。また、その意向を踏まえて、ロスネフチのセーチン社長が中国・韓国・日本を訪問し、政府関係者・エネルギー産業関係者と精力的な意見交換を実施したが、今度は新たに日本の「パートナー」と共に極東 LNG 開発に関する事業遂行を図る一步を踏み出したのである。

なお、ロスネフチとエクソンモービルによるアラスカでのガス開発も、究極的には市場としてアジアを目指すことになる公算が大きい。その意味では、アジア市場向け LNG 開発にロスネフチは複数のオプションを持って戦略的に臨んでいる、といっても良いだろう。さらに、ロスネフチにとっての「戦略的オプション」にはパイプライン供給という可能性も排除はされていないものと考えられる。特に、サハリン 1 の天然ガス資源をどのように開発し、日本を含むアジア市場向けに販路開拓するか、については様々な可能性・思惑・戦略的判断がロシア側・アジア (日本) 側双方に存在するだけに、ロスネフチは LNG だけでなくパイプライン供給の可能性も睨んだ戦略を胸に秘めているのではないだろうか。

他方、ロスネフチの積極的戦略の展開と同時に、ロシアのガス産業を代表し、天然ガス輸出を独占してきたガスプロムも対アジア・対日本市場向けのアプローチを活発化させている。4 月 16 日には、福井県において開催された日露の天然ガス共同調整委員会にガスプロム副社長らが参加、翌 17 日には、ガスプロム・ミレル社長が茂木経済産業大臣と会談し、同社が主導するウラジオストク LNG プロジェクトについて意見交換を実施した。

ウラジオストク LNG は 2012 年 APEC ウラジオストクサミットの際に日露両国が「覚書」を署名したものであり、これまでロシアの新たなアジア（日本）向け LNG（天然ガス）開発・輸出プロジェクトとして、「フロントランナー」的な役割を果たしてきたものである。プーチン大統領の本プロジェクトに寄せる期待も非常に高く、ロシアの威信をかけた国家的重要なプロジェクトとして推進されてきている。今回のガスプロム関係者の訪日と様々な意見交換の実施も、日本やアジア市場の最新の動きを踏まえ、かつ、上述のロスネフチの動きなども見据えながら、改めて本プロジェクト推進の強化を図るための取り組みの一環であると見る事が出来るだろう。

こうしたロシア側の動きの背景には、①ロシアの主力市場である欧州ガス市場での需要低迷とロシア産ガスを巡る厳しい市場環境、②拡大するアジア市場に販路開拓・拡大を目指す必要性の増大、③東シベリア・極東地域の（エネルギー開発を梃とした）経済発展を目指す必要性、④特に日本における震災後の LNG 需要の拡大、等の基本構造がある。加えて、日本・アジア市場の LNG/天然ガス需要拡大という「チャンス」の一方で、米国・カナダからの LNG 輸出計画の進展、東アフリカ（モザンビーク）など新規 LNG 供給源開発推進の動き、などアジア市場獲得を巡る激しい競争環境の出現がある。

また、これまで、ガスプロムが主導して対アジア・対日市場開発が進められてきたが、その成果結実に時間がかかっており、展開を加速させるためにロシア側がロスネフチという新たなプレイヤーを登場させてきた、という側面もある。いわば、ロシアにとっては、「機会の窓」の活用のため積極戦略に打って出ているというところであろう。確かに、日本を含めたアジア市場にとって、距離的に近接し、豊富な資源量を持つロシアのガス（エネルギー）を有効活用することの意味は大きい。そのロシアが積極戦略を展開するのであれば、現在の、そして中長期的な市場環境を睨みながら、ロシア側と建設的な議論をしていくことの意義は大きいといえるだろう。

ただ、ロシアの積極戦略の展開が、新たなプレイヤーの登場・存在感拡大という中で進んでいるだけに、状況が錯綜している面も否めない。上述してきたガスプロム、ロスネフチに加えて、ヤマル LNG に関わるノヴァテック社の関与の可能性も出てきただけに、ロシア情勢は複雑さを増している。ロシアの資源開発と日本（アジア）向け輸出計画が多数存在し、そこに様々な関係者が関わっているだけに、どの案件に、どのように参画し推進していくべきなのか、はわが国の国益をも左右しうる重要な問題である。複雑なロシアの国内事情・情勢、日本・アジア市場全体の需給環境、日露そして米国や中国など主要国間の国際関係なども踏まえた、冷徹・客観的・慎重な分析に基づいた重要な政策判断が求められていくことになるだろう。

4 月末に予定されている安倍首相の訪露では、エネルギー協力を巡る議論も一つのポイントになることは確実であろう。両国にとって意義のある建設的な意見交換が行われることを期待したい。

以上